



発行部数100万部のレシピ本

作る人を応援する
「らくうまレシピ」

読売 クック・ブック

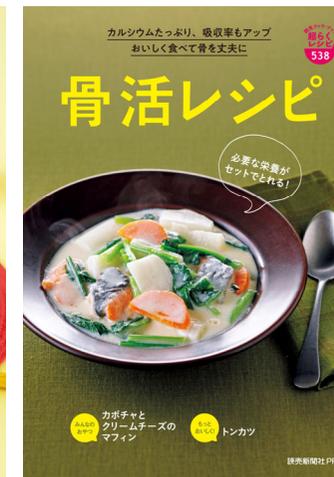
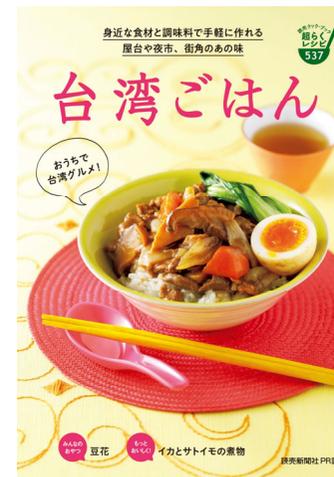
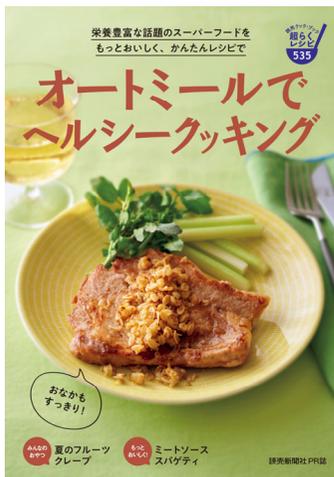
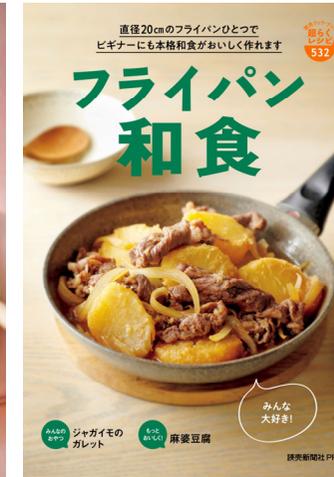
発行・編集／読売新聞社

媒体資料

株式会社 読売情報開発

楽しく・美味しく・健康に

毎月、四季折々の特集企画をお届けしています。



発行号はナンバー表記なので古くならない。長期保存される媒体です。



※画像は2022年発行の読売クック・ブックです。

©2023 YOMIURI JOHO KAIHATSU, INC.

コンテンツ

高品質 プロの著名料理家による
レシピが満載！



安心

カロリー・塩分の表示つき

便利

エプロンのポケットに入るコンパクトサイズ！
ハンディサイズで使いやすい

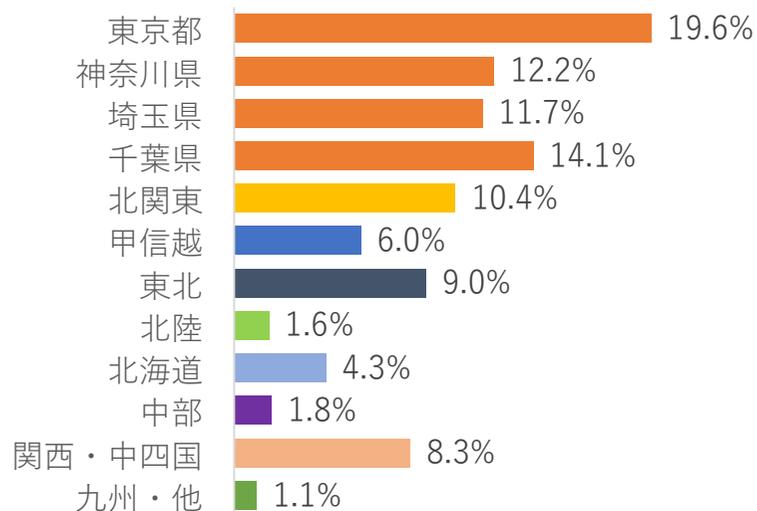
※画像はイメージです。

媒体概要

媒体概要

発行部数	100万部
判型	B6中綴じ
刊行形態	月刊
ページ数	48ページ
配布日	原則として、毎月20日頃から読売新聞 集金時に、販売店員が各家庭にお届け します。(一部例外あり)

配本率 (2023年3月実績)



※甲信越に静岡県を含みます。

発行エリア

読売新聞東京本社管内

発行部数

100万部



媒体の特徴 と強み

高い到達率

読売新聞販売店スタッフが、
毎月の集金時にお届け。
高いリビング到達率が特徴です。

※クレジットカード・銀行引落しの
読者宅などへ、ポスティングで
お届けする場合があります。

シニア女性 に届く

愛読者の60.9%が女性です。
そのうち、86.9%が
50代以上です*。

長期保存

読者の70%以上が、自宅で
半年以上クック・ブックを
保存*。何度も読み返されて
いる媒体です。

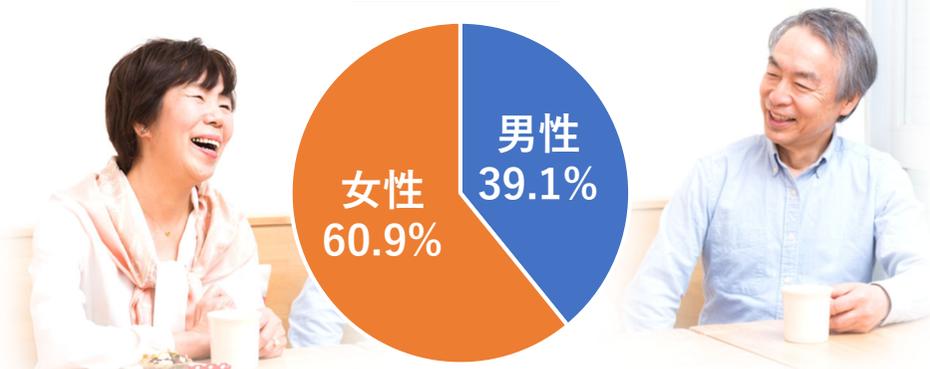


※「刊行物に関するアンケート」
(2018年、読売情報開発)より

毎月クック・ブックをご愛読いただいている読者のデータです。
 ※「刊行物に関するアンケート」より

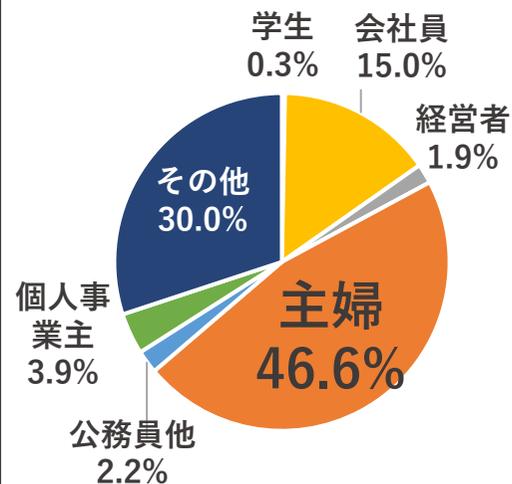
愛読者データ

性別 (N=1,713)

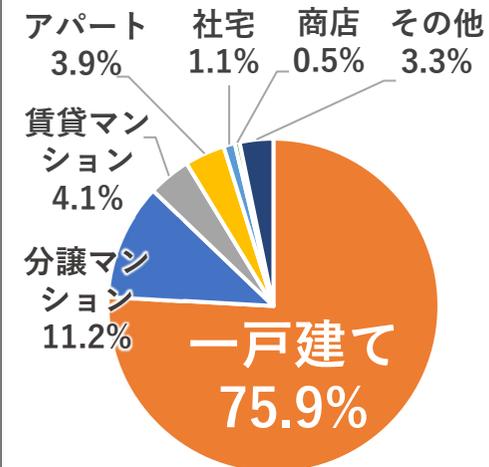


※画像はイメージです。

職業 (N=1,699)

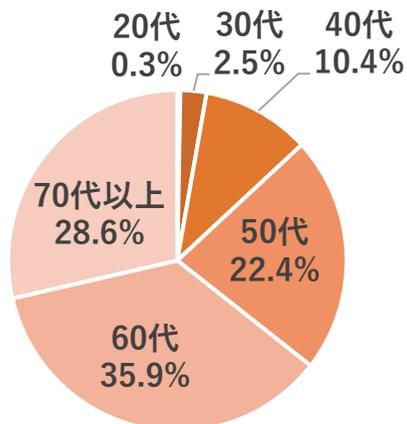


住居構成 (N=1,713)

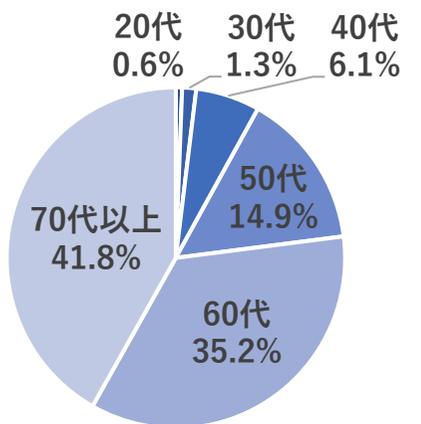


年代

女性 (N=1,043)



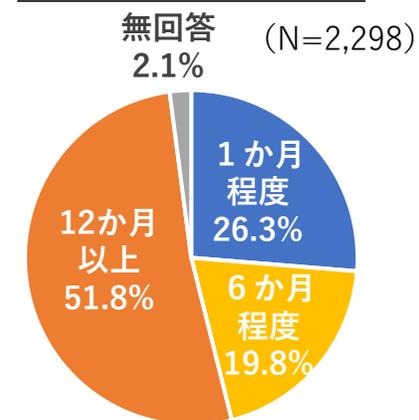
男性 (N=670)



「刊行物に関するアンケート」

- 調査方法：読売新聞読者へアンケート用紙を折込、郵送による回答
- 調査期間：【折込日】2018年4月23日(月)
【申込締切】2018年5月7日(月)消印有効
- 調査地域：読売新聞東京本社管内
(北海道・中部支社を含む)
- 全体回答：3,227名
- 集計対象：1,719名(設問で「毎月クック・ブックを楽しみにしている」と回答した人)
- ※ 読者プロフィールは無回答を除いたため、項目ごとにサンプル数が異なります。
- ※ [媒体の保存期間]のみ、設問でクック・ブックを「毎月楽しみにしている」「ときどき読んでいる」と回答した人を対象に集計しています。

媒体の保存期間



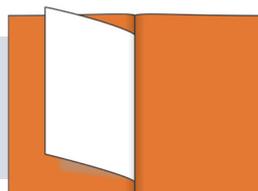
広告料金表

広告面	サイズ (天地×左右)	価格(税別)
表 2	182×128mm	440,000円
表 3	182×128mm	400,000円
中面 2 頁	182×256mm	720,000円

※上記料金には、広告制作費は含まれておりません。
 ※広告掲載には事前に広告表現の審査がございます。

入稿データ

印刷形式	オフセット フルカラー
入稿締切	配布月前々月10日頃 例) 12月配布(1月号)の場合 10月10日締切
入稿形態	完全データ



綴込みハガキを付けることも可能です (1号1社限定)
 詳しくはお問い合わせください。

読者の声

From the TABLE(p59-60)掲載
※内容を抜粋しています。

「おいしかった!!」がうれしくて

●510号掲載
506号『板チョコスイーツ』感想

毎年バレンタインになると、みんなで友チョコの交換をします。(中略)今年はクック・ブックを見て「ブラウニー」と「抹茶のスクエアケーキ」を作りました。たくさんの友だちに「おいしかった!!」と言ってもらえて、うれしかったです!! クック・ブックのおかげです。ありがとうございます!! (13歳女性)

子どもたちが一日一品

●512号掲載
508号『ゆでたまレシビ』感想

わが家には1歳から13歳まで4人の子どもがおりますが、今年は年度末の時期に、まさかの休校要請。一日中、食事のことに追われ、もう疲れたと主人に弱音を吐くと、翌朝、テーブルにクック・ブックが置かれていました。

息子も娘たちも興味津々で手に取り、一日一品はそれぞれ作る、おかずでもおやつでも何でもOKとルールを決めて、盛り上がっていました。おかげで私はずいぶんと楽になりました。人が作ってくれたものっておいしいんですね。

外出もままならない、今だからこそ見つけた楽しみ。クック・ブックを大事に取っておいてくれた主人にも感謝しています。(38歳女性)

ふり返ればクック・ブック

●523号掲載

ここ1年のおうち時間で本の整理・処分をする中、17年分のクック・ブックがほぼ全冊出てきました。作った料理、いつか挑戦してみたい料理には付箋がついおり、懐かしく思い出しました。クック・ブックも時代の流れを反映して、2人分の材料、時短メニューと手軽なものが多くなりました。仕事が忙しく、食事作りに時間を割けなかった頃、時短メニューがあったら助かっただろうなあと思います。逆に古い時代のクック・ブックのちょっと凝った料理は、退職して時間たっぷりの今の私にはもってこいです。クック・ブックはいつの間にかわが家の食卓の歴史の一部となっていました。(65歳女性)

広告に関するお問い合わせ・お申し込みは

株式会社 **読売情報開発**

〒102-8618 東京都千代田区平河町2-13-3

法人事業部 広告開発課

TEL 03-5212-1312 **FAX** 03-5275-3783

MAIL info-goods@yomiuri-johkai.co.jp

営業担当者にお気軽にお問い合わせください。